

富山市立図書館

# 図書館だより 第7号



市立図書館の北側にある、城址公園の秋の一風景です。  
静かな公園内を散策しながら、秋の気配を感じてみませんか？

## 目 次

特集 特色ある図書館のホームページ紹介.....	2
『子どもの読書活動推進に関する法律』と『子どもの読書活動の 推進に関する基本的な計画』について.....	4
私のおすすめ本.....	6
山田孝雄文庫の資料 7.....	7
レファレンスあれこれ.....	8

# 特集 特色ある図書館のホームページ紹介

インターネットの普及も進み、今では日本国内の多くの図書館が、ホームページを開設しています。資料の検索や、予約の可能なページも増えてきており、図書館サービスは、ますます利用者のみなさんの身近になりつつあります。そこで今回の特集では、日本の図書館のホームページの中から、ユニークな内容のもの、「これは便利！」な機能を備えたものを、ご紹介します。

## 富山県立図書館（富山県）

<http://www.tkc.pref.toyama.jp/lib/>

<http://lib1.tkc.pref.toyama.jp/i/>（iモード版）



富山県立図書館のホームページは、10月にリニューアルされました。

富山県に関する、新聞や雑誌の記事が検索できる「**県内新聞雑誌記事見出し検索**」システムや、「富山城絵図」など県立図書館が所蔵している古文書や絵図が、画像で閲覧できる「**コレクション**」のコーナーといった、郷土に関する情報が豊富に揃っています。

また、ホームページのリニューアルにともない、富山市立図書館をはじめとする県内の公共図書館や、富山大学などの大学・短大附属図書館の蔵書を、同時に一括して検索できる「**県内図書館横断**

検索システム」がスタートしました（ただし検索対象は、インターネット上に蔵書データを公開している図書館のみ）。これにより、お探しの本が、県内のどの図書館で所蔵しているか、一覧できるようになりました。

## 市川市立図書館（千葉県）

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/toyo/tosmain.htm>



千葉県の市川市立図書館のホームページは、内容が盛りだくさんです。とくに充実しているのが、図書館に寄せられるさまざまな質問の事例を紹介した、「**レファレンス・データベース**」です。「ファミリーレストランのコーヒー無料サービスを一番はじめに実施したのはどこか？」といった、身近なことについての素朴な疑問から専門的分野に關しての高度な質問まで、図書館には実に多種多

様な質問が寄せられていることがわかります。

調査の経過や、どんな答えが出てきたかなど、眺めているだけでも楽しいのですが、見ているうちに、ふとこれまで疑問に思っていたことへの答えが見つかって、「そうだったのか！」という意外な発見があるかもしれません。

### 豊田中央図書館（愛知県）

<http://www.library.toyota.aichi.jp/>



自動車の町として有名な、愛知県豊田市。市の図書館には「**自動車資料コーナー**」があり、ホームページから、資料を検索することができます。

各自動車メーカーのカタログから、自動車工学の専門書、カーレーサーの伝記に至るまで、国内に限らず海外のものまで幅広く、自動車に関する資料が集められており、さすがに自動車の町らしい、ユニークなコーナーになっています。

車好きの方や、自動車に関する調べものをされている方などは、一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

### 国際子ども図書館（東京都）

平成14年5月に全面開館した国際子ども図書館は、わが国初の児童書の専門図書館です。

このホームページでは、日本国内の7つの図書館をむすぶ総目録により、図書約32万件、雑誌約6,000タイトルにおよぶ、児童書の検索ができます。また、貴重な絵本が画像で閲覧できる

<http://www.kodomo.go.jp>



「**絵本ギャラリー**」や、国内および海外の児童文学関連の最新情報も掲載されています。

子どもたちだけでなく、一般の方々のあいだでも、児童書に対する興味が高まりつつある現在、非常に頼りになる図書館といえます。

### 国立国会図書館（東京都・京都府）

<http://www.ndl.go.jp/index.html>



国立国会図書館には、日本国内の出版物を広く収集し、保存するという役割があります。そのため納本制度というしくみがあり、国内の出版物のほとんどが、少なくとも1部は、国立国会図書館に納められています。したがって、このホーム

ページから資料の検索をすると、今では入手できなくなった本でも、見つかる可能性が非常に高く、現物を手にしなくても、その本に関する情報を知ることができます（実際に図書館を利用する際は、「サービスポイント」に詳細な説明がありますので、ご一読ください）。

そのほかにも、発言者名やキーワードから検索できる「**国会会議録検索**」システムや、明治期の刊行図書を画像で閲覧できる「**近代デジタルライブラリー**」、現在整備が進行している「**雑誌記事検索**」システムなど、多くのコンテンツを含む情報の宝庫です。

また、平成14年10月には、京都府精華町に「**国立国会図書館関西館**」がオープンしています。

そのほかにも、日本の図書館のホームページは

たくさんあります。これらを開覧するには、日本図書館協会が作成した「**図書館リンク集**」（<http://www.soc.nii.ac.jp/jla/link/index.html>）が便利です。

なお、ご紹介したホームページの内容は、平成14年10月現在のものです。

### お知らせ

富山市立図書館では、12月にコンピュータ・システムの更新を予定しており、それにとまって、ホームページもリニューアルいたします。ぜひご活用ください。

（呉羽分館 舟山）

## 『子どもの読書活動推進に関する法律』と『子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画』について

### 《立法までの背景》

子どもたちの衝動的な行動や悲惨な事件が相次ぎ、ある時期「キレル」という言葉が流行りました。自分の考えや意思を言葉で考え、言葉で伝達することが失われつつあるのです。子どもたちの潤いのある心の醸成を考えた時、本とふれあうことによって、言葉を習得し、感受性・表現力・創造力を養い、人としてよりよく生きる力を身につけることができるといわれています。

このような読書の持つ計り知れない価値を認識して、平成11年8月に衆参両院全会一致で「子ども読書年に関する決議」が採択され、2000年を『子ども読書年』と定めたのです。そのシンボル事業として、国立国際子ども図書館が上野公園内に開館しました。また、『子ども読書年』を記念して全国各地で子どもの読書に関する事業が展

開されました。

当館でも、5月7日に「子ども読書まつり」を開催し、おはなし会や紙芝居、工作会、子どもの本のリサイクル、分館をめぐる図書館ラリーなどを通して多くの子どもたちや子どもの本に関心をお持ちの方々に読書の楽しさを共有してもらいました。

この活動が「2000年だけで終わらせたくない」という大きなうねりとなり、子ども読書年の理念を受け継ぎ、この法律で具体化されたのです。

### 《立法までの経緯》

「子どもの読書活動推進に関する法律」は平成11年、当時「子ども読書推進会議」準備会（現在の「子ども読書推進会議」）において初めて提起された。

平成12年10月に「子どもの未来を考える議員連盟」が発足し、同年12月に「子ども読書活動振興法案プロジェクト」を立ち上げる。

法案は平成13年11月27日、自民、民社、公明、保守の7議員により提案され、当初の原案より、第2条（基本理念）に「読書環境の整備」が、第7条（関係機関等との連携強化）に「図書館」が加えられる。

平成13年12月4日、第153回国会において「子どもの読書推進に関する法律」が成立する。

平成14年6月27日～7月11日の機関、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（案）」に対する関係各方面からの意見を聴くために、パブリックコメントを実施する。

平成14年8月2日「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定される。

### 《推進法の主旨》

「基本理念」として「すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう環境整備が推進されなければならない」とし、

- (1) 国や地方公共団体は、上記の基本理念のつとめとして「子ども読書活動推進基本計画」を策定し実施する責務があること。
- (2) 事業者は子どもの健やかな成長に資する書籍を提供すること。
- (3) 保護者は読書の習慣化に積極的な役割を果たすこと。
- (4) 4月23日を「子ども読書の日」とし、国と地方公共団体は、趣旨にふさわしい事業をすること。等

今までバラバラに行われていた子どもの読書活動を、国と社会が一体となって読書環境づくりを進めようとしています。

### 《「子ども読書活動推進基本計画」における公共図書館の役割》

地域における子どもの読書活動の中心的役割を担う公共図書館の主な役割として

- (1) 児童図書収集・提供、読み聞かせ等の実施
- (2) ボランティア養成研修の実施や、地域の関係団体と連携した取り組みの充実
- (3) 図書館から遠距離に住んでいる子どものために移動図書館車の整備
- (4) 児童書の蔵書検索やお話会等の情報提供のための環境整備

を図ることとしています。

また、家庭においては、読み聞かせや子どもと一緒に本を読む等工夫をして、読書を習慣付けるよう親が配慮するようにすること。保育所や幼稚園には、幼児が絵本や物語に積極的に親しむ活動を行うようにと明記しています。

学校図書館については、図書購入のための予算として、平成14年から18年まで毎年約130億円の地方交付税措置が講じられることになっており、学習情報センター及び読書センターとしての様々な支援機能が期待されています。

### 《おわりに》

富山市立図書館では、乳幼児や児童生徒の読書環境の現状を十分に調査するとともに、学校図書館、子ども文庫、子どもの本に関する施設やボランティア団体等の方々からご意見をお聞きしながら計画作成の準備を進めていきたいと考えております。

なお、富山県では来年の読書週間ごろまでには、計画を立案する予定となっております。

（水橋分館 高峯）

# 私のおすすめ本 \* \* \* \* \*



## 『安曇野』 臼井吉見著 (ちくま文庫)

さきの大戦での悲話であるが、学業なかばで学徒動員となり、戦場で散華した大学・高専の学生たちの中には、心の支えとして、日頃の愛読書の『万葉集』や『歎異抄』を密かに携行した者が少なくなかったという。

「あの世への道すがらに読む本に、あなたは何を選びますか」と、もしも問われたら、さて、と一瞬迷うのだが、これまで幾度となく読み、これからも読み続けたいと思っている、マルセル・パニョル作の戯曲「マリウス」(永戸俊雄訳・雄鶏社刊)こそ、私の一冊であろうと思った。

私が「マリウス」に出会ったのは、学生時代に演劇部の公演を見たのが縁である。

フランスの港町、マルセイユの埠頭が舞台で、主人公のマリウスと幼なじみの恋人ファニーをとりまく土地っ子たちの日々が、ペーソツとユーモアこもごもに描かれている。

残念なことには絶版となり、今は手に入りにくい。今も手に入る小説として、『安曇野』(臼井吉見著)の一読をおすすめしたい。

『安曇野』は、明治から昭和の終戦後までの、日本の近代化の歩みを、支配者側からではなく、在野側から描写した大河小説である。

全五巻の長編であるが、こんな小説こそ青年時代に熟読して欲しいものだ。

この全五巻を、富山市民大学では十年かけて二度繰り返し読んだが、この時の受講者の皆さんは、「戦前の歴史の授業では習わなかった、もう一つの日本史があることを知って、目からウ

ロコが落ちた思いである」と、一様に『安曇野』への感動を述べた。

私は上京するたびに、新宿中村屋でカレーを食べることにしている。カレーは中村屋の人気メニューである。

この中村屋こそが、『安曇野』の舞台で、オーナーの相馬愛蔵夫妻が主人公である。

信州の安曇野から上京した新婚の相馬夫妻が、苦心の末、パン屋の自立をなし遂げるのだが、娘婿のラス・ピハリ・ポーズの助言でカレーを調理、販売したのが当たり、看板料理となった。(中村屋ではインド流にカリーと呼んでいる)

中村屋にまつわる数々のエピソードは、パンやカリーの成功にくわえ、若い芸術家、文人、亡命者、無政府主義者、社会主義者たちの理解者となって、彼らを経済的にも、精神的にも支援したことにある。

わが娘をインド人のピハリ・ポーズに嫁がせたのも、インド独立運動の志士ポーズが、イギリス官憲に追われ、日本に亡命していたのを助けるためであった。当時の日本は、日英同盟を結んでいたため、日本の官憲からも探索されていた。

戦災で壊滅的な打撃を受けた中村屋も立ち直り、昔に劣らない繁栄ぶりである。寂しいのは、屋号も商標も昔のままだが、経営者はすっかり入れ替わり相馬愛蔵の血縁者もゆかりの者もないという。諸行無常の現世である。

(伊藤 了一)

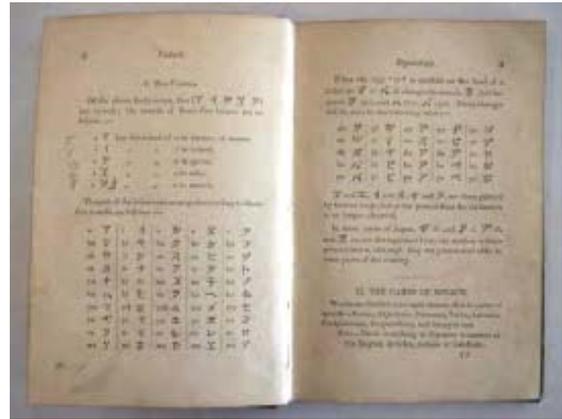
**執筆者紹介** 「ヘルマン・ヘッセを読む会」・「とやま文学散歩」講師。文芸誌「氷見文学」・「海鳴」同人、エッセイ誌「某月某日」主宰。元富山市社会教育センター・富山市ガラス造形研究所所長・富山市教育委員会理事。同人誌などに創作(小説)50篇あまり発表。

## 山田孝雄文庫の資料 7 An elementary grammar of Japanese language(日本文典初歩)

明治6年米国駐在の代理公使森有禮が『Education in Japan (日本の教育)』をニューヨークで出版し、日本語には欠点が多く教育上の役に立たないため、英語をもって国語としなければならぬ有様であると述べました。これをロンドン留学中であった馬場辰猪が耳にし、森の意見に論駁するため直ちに『An elementary grammar of Japanese language (日本文典初歩)』を書いてロンドンで出版しました。馬場辰猪は帰国してのち自由民権運動家となります。

この書『日本文典初歩』は明治6年(1873年)初版が刊行され、明治21年(1888年)にはロンドンのトゥリュブナー社とニューヨークのアブルトン社から増補版(第2版)が刊行されました。第2版は初版の本文に若干の改訂を加え、練習問題を20題増加して120題としたほか、初版の序文は削除し替わりに第2版の序文を新たにつけています。更に明治37年(1904年)には、ロンドン駐在日本大使館の浮田郷次により、第2版をの本文を改訂し、浮田郷次による序、当時の日本協会副会長アーサー・ディオウスイーの緒言を追加して、第3版が刊行されました。

山田孝雄文庫に所蔵するのは、1888年に出版された第2版です。書入れはほとんどなく、1pと2pにあたかも振り仮名でもするようにいろは歌に i ro ha ni ho he to ti ri nu ru o また母音のアイウエヲに アイウエオ、五十音図の末尾に n ん を書入れてあるだけです。これだけではこの書入れが山田孝雄によるものとも、他の誰かによるものとも決められません。(おそらくこの本のもとの持ち主は、日本語を学習しようとした外国人であろうと思われます。そして、山田孝雄はこの本を古書籍商から手に入れたものではないかと思えます。ただし、確かな根拠のある推測ではありません。)



馬場辰猪著 増補第2版 明治21年(1888年) ロンドン  
トゥリュブナー社、ニューヨーク アブルトン社刊 120p  
たて18.6cm×よこ13.2cm 本文は英文

山田孝雄の『國語學史』および『國語學史要』では、いずれも最終章で 口語法の研究と馬場辰猪 について言及しています。両書ともいたずらに学者・学説の羅列や解説をしたものではなく、それらの学的価値と史的価値とを正当に批判・評価することを旨としたところに特色があります。『國語學史』の中では、『日本文典初歩』について次のように評価しています。

「真に口語全般にわたりて法則を述べたるものは馬場辰猪の日本文典初歩なりとす。この日本文典初歩はただ日本文法の為のみに著わしたるに止まるものにあらずして真にわが国語の死活問題と深き關係に立てるものなり。...中略...その説には今日より見て賛成しかぬる点なきにあらずといへども、しかも、内容は簡単にかきたれど、要領を得たる書なり。...中略...而してこれ実に邦人が英文にて出版せし日本文典の嚆矢たると共に、日本口語法の全般に通じたる組織的研究のはじめにして、國語學史上重要な地位に立てるものなりとす。」

(中央館 亀澤)

### 展示「山田孝雄の見た国語学の歴史」

11月2日(土)から12月27日(金)まで山田孝雄文庫で開催します

## レファレンスあれこれ

Q . 水島柿の名前の由来を知りたい。🍑

A . 柿がおいしい季節。上記のような質問を受けた。そこで、『果実・種実』(新・食品事典 6)を調べるが出てこない。次に、『カキ・キウイ』(果樹全書 農文協・編刊)を調べると、北陸地方で栽培される甘柿と記されていた。

もしやと思い、『富山大百科事典』を見ると、射水郡原産の甘柿の品種名である、と書かれていたが名前の由来までは載っていなかった。

次に、『ふるさとの味と技 いきいき富山特産品ガイド』『富山の特産』を見ると、大正2年に富山農会が発行した『園芸要鑑』には「今より200年以前、片口村大字大場村の住人前川弥三郎なるもの果樹の栽植に熱心にして...、栽培を村民に勧めたる結果射水一円の特産として名声遠近に知られるに至れり...」と記されていると、載っていた。しかし、由来まではわからない。

そこで、『新湊市史 近現代』を見ると、「江戸時代の中頃から当地域を中心に射水平野一円にわたり、各家の屋敷内に栽培され、それは主として自家で消費するためのものであった。」と書かれているが、それ以上はわからない。もう一冊、『片口今むかし』(市立片口公民館片口今むかし編集委員会 編)を見ると、「昭和50年市指定天然記念物。高場が発祥地で、明治になって水稲奨励優良品種「水島」にちなんで命名された」と書かれていた。

これで答えが出たようなものだが、もうひとつ納得がいかない。そこで、『新湊の文化財』(新湊市教育委員会 編)を見ると、明治の頃の水稲の品種で味・収穫ともに優れていた「水島」から名付けられたと付け加えられていた。

Q . 現在の富山市立西田地方小学校は、明治の頃、「立志小学校」と呼ばれていたが、富山市で何番目にできた小学校なのか知りたい。

A . いつ頃創立されたか、という質問はときどき受けるが、上記のような質問は珍しい。

さっそく、『富山県教育史 上巻』を調べると立志小学校は、明治6年に創立されたことがわかる。しかし、同年に創立された小学校はいくつもあり、何番目かはわからなかった。そこで、『富山市史 第1巻』『富山市史 通史 下』を見るが明治6年に創立されたこと以外は、載っていない。次に、昭和24年から所蔵している『富山市教育要覧』(富山市教育委員会 編)の昭和26年版を調べると、創立年月が載っており、何番目にできた小学校かが一目でわかるようになっていた。西田地方小学校は、明治6年7月に創立となっており、数えると、10番目にできた小学校だということがわかった。

ちなみに、市内の中学校の創立年月も載っている。

(中央館 柴田)



平成14年10月25日 富山市立図書館 編集・発行  
富山市丸の内1丁目4-50 TEL 076-432-7272  
HPアドレス <http://sv06.city.toyama.toyama.jp>